平成29年5月1日現在		
世帯数	： 857戸	(-2)
人口	：1561人	(-10)
男	： 758人	(-6)
女	： 803人	(-4)

～松本市重要有形民俗文化財　松本城下町の舞台　シリーズ⑥～

「本町4丁目　舞台の由来と特徴」

現在の舞台
（昭和55年以来の修復）

松本町人の心意気を示す象徴として、昔から大きな役割を果たしてきた松本の舞台18台が平成13年7月に松本市重要有形民俗文化財に指定され、その1台が本町4丁目の舞台です。その舞台が、3年11ヶ月前になりますが、立派に修復完成し平成25年6月27日梅風閣にて舞台修復に御指導・御支援・御協力頂きました大勢の皆様の御出席を賜り盛大に舞台修復竣工祝賀会を開催しました。その時は町会員一同晴れやかで、喜びもひとしおでした。では舞台の由来と特徴を述べます。建造は明治初期といわれて屋根のない置台型。古典的舞台形式で木彫刻はなく簡素。制作者不詳。装飾は、錺（かざり）金具は勾欄擬珠（こうらんぎしゅ）で上層が黒漆塗り仕上げ。下層は研出漆塗り仕上げ。大車輪は御所車型で独特の造り。現在は雨よけに2階上層部にシートとビニールカバーを設置し、ビニールカバーは上げ下げ自由。飾り武者人形は神功（じんぐう）皇后で江戸時代の作。有識者の方より文化財的な価値が高く秀逸だと評され先人からは病と災厄避けがこもると伝承されています。その飾り人形ですが実は事情があって昔4丁目に豪華絢爛な大型金舞台があり、そこに飾ってあったのが、この神功皇后です。ただ舞台があまりにも大きく重く曳き回しに大変だった為、神功皇后人形を外した舞台を明治27年に池田町1丁目に売却してしまいました。さて舞台も戦前は護国神社例大祭で奉置したり又あめ市にも出したりしましたが現在は深志神社と四柱神社の祭礼での出動が主になっています。ですが文化財に指定されてからは各種イベントに頼まれて舞台を出動・展示し、市民や観光客の目を楽しませ貢献しています。ただ当町会は事業所が多くて住人が少なく、しかも少子高齢化で舞台曳行時には苦労しています。しかし伝統の祭礼で舞台曳行や直会を催すのは町会員同志の絆を深めます。歴代より受継いでいる貴重な舞台を今後も皆で大切に維持管理し、末永く後世に、引継ぎたいと思っています。

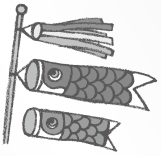
武者人形　神功皇后
（気長足姫尊）

Presented by 視聴覚委員会

＼まちかどフォト／

「鯉のぼり」

青空の中、女鳥羽川の上を多くの鯉のぼりが泳いでいました。



「第4分団詰所」

西長沢町から中条中へ新築移転されました。

第一地区の文化・伝統　シリーズ④

「本町の歌碑」

菅江真澄の歌碑

本町通り、「牛つなぎ石」の対面、千歳橋に近い辺りの歩道に小さな歌碑があります。そこには江戸時代後期の旅行家・博物学者の菅江真澄の和歌が刻まれています。「いつの世に植えてちとせを松本の栄え久しき色をこそみれ」

知る人ぞ知る菅江真澄（すがえ　ますみ、1754年～1829年）は、生まれは三河（現在の愛知県）と伝えられ、30歳で故郷を出て以来、信越・東北から蝦夷地にいたる長い旅を重ね、著述は100種200冊ほどあり、「菅江真澄遊覧記」と総称されています。（平凡社の叢書・東洋文庫に収録）。

菅江真澄は1783年から一年余信濃国本洗馬村（現塩尻市）に逗留し、居住跡は「釜井庵」（塩尻市大字洗馬2323-1）として現存し、隣が資料館となっています。博物学、民俗学の先駆者とされる菅江真澄の足跡を訪ね、柳田國男など多くの学者、文化人が訪れています。

その菅江真澄が松本市街に足を運び前記の歌を詠んだのですが、当時の松本は戸田氏が城主でした。公称六万石でも実質十万石とされた松本は、交通の要衝として信州随一の賑わいを呈していたと云います。「牛つなぎ石」は元々高山方面へ向かう「野麦街道」と善光寺へ至る「善光寺街道」の交差する地点に置かれた道祖神だったそうで、あの松尾芭蕉も菅江真澄が訪れる数十年前に、洗馬から善光寺へ向かう途中に松本城を眺めながら歌碑の辺りを歩いたのでしょう。「千歳橋」は元は「大手橋」と呼ばれ、女鳥羽川によって画された町人町（女鳥羽川以南）と武士の生活域（女鳥羽川以北）との境界となっていました。中町は善光寺街道に沿っていて、主に酒造業や呉服などの問屋が集まり繁盛してきました。今もその名残が色濃く残っています。

「野麦街道」は、その「牛つなぎ石」を起点に飛騨へと通じ、この道を通って松本へ入ってきたのが年取りの魚の鰤（ぶり）で、「飛騨鰤」と呼ばれました。松本平では、年取りの魚が鰤の地域と鮭の地域があり、どちらが裕福な地域だったかなどの論争も聞かれますが、ちなみに鮭は松本藩の特産物で、藩から幕府への献上品の一つでした。当時の松本は全国でも有数の鮭の遡上地だったとのこと。鮭の遡上は下流にダムが出来る昭和の時代まで見られ、記録では昭和14年に薄川で獲れたものが最後の鮭だったとのこと。市内巾上の女鳥羽川沿いに、「犀川通船記念碑」がありますが、これは当時の有力輸送手段でもあった女鳥羽川、犀川の船便の発着場跡で、この発着場建設の許可を松本藩が出すまで、申請から100年を要しました。反対運動があったからで、そのうちの有力なものが鮭漁に支障が出るからというものでした。千歳橋（当時の大手橋）の下を鮭が遡上していたわけです。

一つの歌碑からいろいろ往時の松本を思い描いてきましたが、松本城の姿と女鳥羽川の流れが今も昔も変わらないのはありがたいことです。本町、伊勢町、中町など、松本城と共に発展してきた街がこれからもさらに歴史を重ね、また、女鳥羽川に再び鮭が遡上する日を夢見たいものです。

平成29年度 第一地区町会役員
（敬称略）

	○町会長	○町内公民館長
本町1丁目	山崎眞生夫	内藤　英昭
本町2丁目	山本　隆一	都筑　朋彦
本町3丁目	石塚　栄一	林　健司
本町4丁目	北原　一男	岩原　正勲
本町5丁目	高橋　明利	矢口　尚久
伊勢町1丁目	鈴木　史朗	田中　博
伊勢町2丁目	田多井健至	犬飼　陽一
伊勢町3丁目	深澤　健能	桐原　崇光
分銅町	藤澤　淳次	（同左）
新伊勢町	真島　富男	高嶋　敏行
神明町	土屋　忠史	塩原　信一
国府町	村田　精義	毛利　達生
西五町	春日　孝介	（同左）
西長沢町	新井富士子	（同左）
中条中	中畑　康則	花村　麗子
博労町	伊藤　峯一	伊藤　善立
中町1丁目	羽山　義輝	飯森福太郎
中町2丁目	海川　定雄	太田千代子
中町3丁目	伊東祐次郎	（同左）

電車通り

昨年12月から店の前の道路工事が始まった。道路を掘り返す騒音とほこりに、水まき、ふき掃除、はき掃除に追われる日々となった。私達も自宅から自転車で店へ通う毎日であるが、通りの両側は住宅、店舗、工場、病院などがびっしり並ぶ。車が通行止めになってもそれらの人々の為に交通整理の作業員の方々が、交替で、それは親切な案内や誘導をしてくださるようになった。「気をつけとくれ」とか「自転車運んでやるで歩いてわたっとくれや」とか。おばちゃんの作業員の方にはポケットから取り出した塩飴をいただいてしまったり。こうして、3月末に工事が終る頃には、毎日あいさつを交わし、世間話的なおしゃべりさえするようになっていた。今まで多くの工事現場を通りかかってきたのに、そこで働く人々に目を向けることさえなく通り過ぎてきた気がする。今は車で通り過ぎる時も、作業員の方たちに親しみをこめた目を向けるようになったし「ご苦労さまです」という声も「おつかれさまです」とか、夜間なら「おやすみなさい」という言葉もごく自然に出るようになった。